



株式会社  
**ミナモト建築工房**

岡山県岡山市北区辰巳 14 番地 101  
URL : <https://minamoto-k.com>

## 自分たちにできることを一つずつ行い お客様に喜ばれる家づくりを通して 豊かな町づくりや社会問題に貢献する

「今、自分たちにできることを一つずつすることで、豊かな自然に困まれた地球が百年後、千年後も続くことの助けになってほしい」—— 2021年に創業30年を迎えた『ミナモト建築工房』はそんな強い想いを持って事業に取り組み、家づくりを通して、豊かな町づくりや環境問題に大きく貢献している会社だ。本日はタレントの松尾伴内氏が同社を訪問。青江社長の歩みを交えたお話を伺いつつ、事業に懸ける想いに迫った。



代表取締役 **青江 肇一**

——まずは、御社と青江社長の歩みから。  
当社は木造注文住宅の設計施工や分譲地開発を手掛ける会社で、1991年、私が中学生のころに父が創設しました。私がか業に入ったのは後年のことで、学業修了後はデザイン関係の仕事をし、28歳のころからは世界一周、約50カ国を旅していました。都市部よりも地方に好んで赴きました。見ず知らずの外国人を快く迎え入れ、泊めて下さるような親切な方が世界にはたくさんいて、本当にお世話になりましたね。日本の社会の「常識」は一步外に出れば非常識となり、世界には多様な「価値観」があることを体験を通して学びました。また、町の中心には広場があり、週末になると必ずお祭りがあるんです。そこには老若男女が一つの場所に集まって、お祭りを楽しんでいる様子が、とても幸せな空間と感じました。それは、日本ではあまり見られなくなった風景でしたから。  
——それは貴重な体験ですね。その後、家業に入られた経緯とありますか？  
フィジーという国で、ある少年が、芝の丘に家がポツポツ点在する美しい集落に住み、父親と一緒に芝刈りをしていたんですね。その2人の誇らしく働く姿が、とても美しく見えたのです。彼らと接した時に、親子と一緒に仕事をする、生まれ育った場所で働くことの素晴らしさに気づきました。現代の日本社会でそれは望んでも叶わない人がほとんどです。でも「自分にはそのチャンスがある」と彼らに教えてもらい、帰国後は地元に戻り、父の背中を見て仕事をしようになりました。その後代替わりを果たしたのが今から3年前のことです。  
——素敵なお話です。事業においてはどんなことを大切にされていますか。



「若き日に世界を巡ってその経験が現在の事業に大きく活かされています。スケールは小さく、俯瞰し、大切な事を見えてくると、聡明な経営者だと感じましたよ！」  
松尾 伴内：談

この町をより暮らしやすくし、「活気があるこの町に住みたい」と口々に言っていたような町にしていきたい、との想いが根本にあります。その観点から、家づくりや町づくりといった部分に注力しています。実は当社は、今年予定の棟数を完成した時に、千組のお客様にお引渡ししたことになるんですね。それだけ多くのお客様とご縁を紡いだことに万感の思いがありますし、お引渡し後も未永く交流ができる取り組みを続け、コミュニティや人間関係を大事にしていきたいと思っています。当社は10年ほど前からOBのお客様や地域の方とまちづくりのプラットフォーム「くらしのたね」を運営しております。ここでは地域のお祭りを企画したり、暮らしの中で抱える悩みを共有する座談会などを行いながら地域での顔の見える関係性づくりを育てています。こうした活動は地域防災にもつながっています。  
——町全体のことを考えておられますね！  
また現代では環境問題も大きな課題ですから、小さなことから取り組んでいきたい。たとえば木は脱炭素における重要な要素で、木を育てれば光合成により植物がCO<sub>2</sub>を吸収してくれますし、木材を活用することでCO<sub>2</sub>を固定することができます。木造にこだわりの、苗木を植えていくところから、地球環境を整えていきたいと考えています。